

研修参加報告書

令和 7年 8月 8日

会 派 名 江南新風クラブ
会派代表者 伊藤 吉弘

参加者：藤岡 和俊

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和7年8月7日（木）～8月8日（金）
研修時間	8月7日（木）12:30～8月8日（金）15:15
研修場所	全国市町村国際文化研修所（J I A M）
研修内容	<p>令和7年度 市町村議会議員研修 [2日間コース] 「自治体予算を考える」</p> <p>8月7日（木） 【講義】13:00～14:00 演題：自治体予算の原則</p> <p>【講義】14:15～16:30 演題：歳入・歳出予算の基礎とそのチェックポイント</p> <p>【演習】16:45～17:30 グループ討議</p> <p>18:00～交流会</p> <p>8月8日（金） 【講義】9:25～12:00 講演：財政の現状把握～地方公会計の活用～</p> <p>【演習】13:00～15:00 意見交換、発表・質疑・まとめ</p> <p>講師：金崎 健太郎 氏 （武庫川女子大学経営学部教授）</p>

研修参加報告書

■目的

地方議会は、広く住民の意見や要望を把握し、議論することによって、住民の未来を創造する役割を担っている。地方の財政状況が厳しくなる中、住民の代表として一番身近な存在である地方議員は、まちの財政状況や施策を把握・議論することが重要である。

今回の研修では、行政と共に、住民のための予算を作成するにあたり、必要な知識や視点を身につけることを目的とする。

■内容

令和7年度 市町村議会議員研修 [2日間コース]

自治体予算を考える

講師：金崎健太郎 氏（武庫川女子大学経営学部教授）（2日間）

8月7日（木）

【講義】 13:00～14:00

演題：自治体予算の原則

民間は決算がすべて。収益を上げて存続していくため。決算で収益が出た場合、その収益をどう使うかを株主総会等で考える。

自治体は予算がすべて。自治体は行政サービスをすることが目的。予算でどのような行政サービスを行うのかを決める。予算に載せないと1円たりとも使えない。決算では、予算で決めた行政サービスがきちんとできたかどうかをチェックする。

会計年度独立の原則がある。これは今、納付された税は、今、税を納めた人へ行政サービスという形で還すことが基本だからである。

民間は3月31日で締め切ると4月1日から決算処理ができるので、6月ぐらいに株主総会ができる。自治体は3月31日で締め切っても、5月31日までお金の出し入れをしても良いことになっている。6月1日から決算処理が始まるため、決算審査が9月になる。

総計予算主義の原則。収入のすべてを歳入予算に、支出のすべてを歳出予算に計上しなければならない。

予算の調製権は首長に専属。予算の提案も首長の専権事項。議会で可決されると予算が成立し、首長に予算の執行権が賦与される。議会・議員には予算の提案権はない。

8月頃から各課で予算要求への準備が始まる。そのため、市へ要望を出すには8月までが良い。

令和5年度当初予算の修正可決は17市／815市（2.1%）、否決3市（0.4%）、附帯決議あり可決30市（3.7%）修正がもう少し多くても良い。

【講義】 14 : 15 ~ 16 : 30

演題：歳入・歳出予算の基礎とそのチェックポイント

予算全体への視点、健全な財政運営の視点、予算に盛り込まれた政策・事業への視点の3つがある。

予算編成段階では税金がどのぐらい入ってくるのかを把握することと、予算執行段階では適実且つ厳正な収入の確保が必要である。

普通交付税額＝基準財政需要額－基準財政収入額

国の税収入が良いため、令和7年度の臨時財政対策債は0円になった。

法定外税（宿泊税など）を考えるのも良い。

地方も税収入は増えているが、民生費が膨らんでおり、予算は硬直化している。

繰出金（特に国民健康保険事業会計へ）も増えてきている。

【演習】 16 : 45 ~ 17 : 30

グループ討議

＜財源確保策を考える＞

5班

左から

- ・ 岐阜市議会議員 野本琢磨
- ・ 福知山市議会議員 イシワタマリ
- ・ 西条市議会議員 真鍋顕伸
- ・ 江南市議会議員 藤岡和俊
- ・ 川越市議会議員 糸真美子



18 : 00 ~ 交流会

8月8日（金）

【講義】 9 : 25 ~ 12 : 00

講演：財政の現状把握～地方公会計の活用～

- ・ 実質収支＝歳入決算額－歳出決算額－翌年度への繰越し財源

黒字か赤字かを判断するが、黒字が当たり前なのであまり重要な数字ではない。

- ・ 実質収支比率

3～5%程度が望ましいと言われている。民間企業では黒字が多いのは良いことだが、自治体では黒字が多いと仕事をしていないことになり良くない。

- ・ 単年度収支＝実質収支－前年度の実質収支

実質単年度収支の赤字が継続すると、次第に財政が危険水域に入る。

- ・ 財政力指数

自ら稼ぐ力がどのぐらいあるのか。財政力指数が良くても、財政が良いとは限らない。財政力指数が高いほど、使えるお金は多くなる。

- ・ 経常収支比率＝（経常経費充当一般財源／経常一般財源）×100

非常に重要な指標。右から入って左へ出ていくお金がどのぐらいあるのか。全国の市の平均は92.9%。扶助費が増えている。

・ 財政健全化判断比率

実質赤字比率…一般会計等の赤字の大きさの財政規模に対する割合

連結実質赤字比率…公営企業を含む全会計の赤字の大きさの財政規模に対する割合

実質公債費比率…実質的な借金返済額の大きさの財政規模に対する割合

将来負担比率…一般会計等の借入金や第3セクター等まで含めた将来支払っていく可能性のある負担額の大きさの財政規模に対する割合

・ 財務書類 4 表…決算の数値を使って民間の資料を作る。

貸借対照表…会計年度末における資産や負債の状況を一覧的に表した。

行政コスト計算書…経費から対価（収入）を差し引いた純経常行政コスト。

純資産変動計算書…貸借対照表の純資産の各項目がどのように変動したか。

資金収支計算書…行政活動に伴う現金などの資金の流れを、業務活動収支、投資活動収支、財源活動収支の3つの区分に分けて表した。

【演習】 13:00～15:00

意見交換、発表・質疑・まとめ

① 予算審議のあり方

1 班

予算決算の委員会がない、総務委員会でしか取り扱わないという議会もある。各常任委員会で審議をする。どのやり方にも一長一短がある。会派がない議会もある。

2 班

メンバー全員が1期生であった。元銀行員であるが、自治体の予算決算はまったく違う。議員のスキルアップ、議員間討議を取り入れて議論を活発化する必要がある。既存の常識にとらわれない議論も必要である。

② 決算審査や事業の評価

2 班

資料を閲覧する時間をつくる。ライブ中継をしている議会もある。

5 班

自治体ごとの問題点や感じていることを話した。知識のない新人議員が決算審査をしてよいのかという意見が出た。事務事業評価を決算審査に活用するのは合理的である。

③ 財源確保策

1 班

自主財源の確保をテーマに議論をした。ふるさと納税をいかにして集めるか。災害グッズの販売、ゴルフ場にふるさと納税販売機を設置した例もある。ネーミングライツも有効である。首長のやる気が大事である。

6 班

新しい税の導入（法定外目的税）、利用料金（外国人等区分を作って料金を変える）、ふるさと納税（目的を細分化した商品。長野県：学校を指定して学校を応援する）。市のお金を外に出さないことも必要でないか。

④ 公共施設の適正管理（更新・統廃合・長寿命化）

3 班

借金をせずに市役所を建て替えた市がある。施設の老朽化や長寿命化に関して、どこから手を付けて良いのか、優先順位や財源、多角的にものをみる必要があり、非常に難しい。

4 班

学校の統廃合や利活用の問題が大きい。学校の跡地利用は難しい。防災の観点からなくすこともできない。100名の児童がいるのに、6校の小学校を1校に統廃合しようとする市がある。国の方針には従っているが、市民に目を向けていない。

⑤ 歳出の効率化（アウトソーシング、ICT活用など）

1 班

評価軸が定まっていないので、民間委託の評価ができていない。5年評価にはなっているが、1年ごとに評価すべきではないか。住民サービスにおける自治体DXの活用については、自治体からの情報発信ができていますが、住民からの吸い上げができていない。ペーパーレスをしながら、まだ紙を使っている。

<まとめ>

自治体の予算の見方を考える。自治体の行政サービスを決めていくのが予算である。5年先、10年先の将来も決めていくことになる。毎年判断の中で、来年何をするのかを考えるのは当然だが、中長期的な考えも必要である。何をするだけでなく、何をやめるかを議論しなければならない。

日本の地方自治体の特徴の1つとして、自治体間の相互参照をする。成功したことの事例をもってこれば成功する可能性がある。しかし、議会同士の相互参照はしていない。

■所感

このテーマに参加をしてくる議員は非常に勉強熱心である。会派や議会で声を掛け合って複数で参加している議会もある。町村議会は基本的に政務活動費がないと思われるので自費での参加である。北海道から九州まで118名（3名欠席）が名簿に記載されていた。財政に関する話は、すべての議員にとって非常に大切な知識であり、全議員が講習を受けるべきである。財政に関する知識がない状態で、予算や決算の採決はできないはずであり、市民への説明もできない。

金崎先生のお話はとてもわかりやすく、昨年に引き続き2回目の受講である。この研修は5～6人の議員で班に分かれてグループ討議を行う点も良い。他の議会での取り組みや議員の考え方を学ぶことができる。

私が参加した班は、財源確保策を考えるグループであったが、どの自治体も財源確保に苦しんでいる。財政力指数が1.0を超える不交付団体の議員はおらず、ネーミングライツやふるさと納税、法定外目的税、広告収入などについて話し合った。江南市が今年度から市指定のごみ袋に広告を載せたことも紹介した。